

(別添3)

**【茨城県常総市】
校務DX計画**

常総市（以下「本市」という。）は、平成21年3月に「常総市学校情報通信整備基本計画」を策定し、「みんなではじめよう、あんしん、べんりでやさしい教育の情報化」の基本理念のもと、学校ICT環境の整備、学校情報通信センターシステムの構築、校務支援システムの導入等に取り組んできました。

その後、平成27年6月には、取組みを更に充実させるとともに、教職員や子どもたちによるICTの積極的・効果的な活用を推進し、学力の向上及び校務の効率化につなげることを目的に「常総市教育情報化推進計画（以下「情報化計画」という。）」を策定し、教育の情報化を総合的かつ体系的に推進してきたところです。

令和元年度には、文部科学省が提唱した「GIGAスクール構想」が、その直後に発生した新型コロナウイルス感染症への対応のため、国のICT環境整備計画が大幅に前倒しされ、本市でも、令和2年度末までに、市内すべての小中学校で、児童生徒1人1台端末や高速・大容量の校内通信ネットワークの整備、クラウドサービスの積極的な活用など、新たな時代に対応する教育ICT環境が実現することとなりました。

情報化が高度に進展し、変化の激しい現代社会においては、児童生徒の情報活用能力を各学校段階、各教科等の学習活動を通じて体系的に育成することが求められています。そのため、「学習の基盤となる資質・能力」であり、これからの社会を生きるために必要な情報活用能力を子どもたちに身につけさせるとともに、整備されたICT環境を効果的に活用するなど、加速度的に教育の情報化を推進する必要があることから令和6年3月に「情報化計画」を改定いたしました。

「情報化計画」の推進並びに「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言及び「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定めます。

表1 具体的な取組み

	取組み	詳細
1	ゼロトラスト環境の構築	(1) 校務支援システム環境のクラウド化 (2) ネットワーク環境の再構築 (3) テレワーク環境の構築 (4) データ関係基盤ダッシュボードの創出
2	ペーパーレス化の推進	(1) オンライン会議の推進 (2) 押印・FAXの見直し (3) 電子決裁システムの導入
3	情報セキュリティの確保	(1) 常総市学校情報セキュリティポリシーの定期的な見直し (2) 情報セキュリティ教育の充実

4	その他	(1) A Iドリル教材の活用 (2) 授業支援ツールの活用 (3) A I教材の活用 (4) デジタル採点システムの活用
---	-----	--

1 ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務支援システム環境のクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型で運用しており、教務・学籍・成績管理・内部事務など幅広い業務で利用しています。次期更新時では、保護者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、個々のシステム・サービスに対する入力作業の削減による教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、パブリッククラウド上での運用を前提に稼働することを検討します。

また、クラウド化に伴い、守るべき情報資産にアクセスするものはすべて信用せずにその安全性を検証することで、情報資産への脅威を防ぐという「ゼロトラストセキュリティ」の考え方に準じたセキュリティ対策を講じます。その上で教育データの利活用をより加速させるため、校務系・学習系ネットワークの統合についても検討します。

(2) ネットワーク環境の再構築

多要素認証や通信データの確認、エンドポイント監査・検知など校務支援システム環境のクラウド化による「ゼロトラストセキュリティ」の考え方に準じたネットワークの再構築を検討します。

その際、1人1台端末の利活用を最大限引き出せる十分なネットワーク速度を確保するための検討においても、合わせて実施します。

(3) テレワーク環境の構築

校務支援システムのクラウド化及びネットワークの再構築並びに認証方法の確立及びセキュリティポリシーの見直し等テレワークを実施するためのセキュリティ対策を講じた上でテレワークを実現できる環境を構築します。

(4) データ関係基盤ダッシュボードの創出

児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データ、授業支援ツールやA Iドリル教材で蓄積された学習系データ等の膨大なデータは、現在個々に保存されているため、今後 MEXCBT のデータを含め、収集・分析・可視化するインターフェースを構築し、そこから得られる情報を効果的に活用して、業務及び授業の改善につなげるために、データ関係基盤ダッシュボードの導入し、1人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実、学校経営判断の迅速化や適正化及び教育委員会による学校支援や教職員ケアの充実、学校経営指導の効率化、資源配分の見直しに繋げることを実現します。

2 ペーパーレス化の推進

(1) オンライン会議の推進

現在、教育委員会主催の一部で、1人1台端末を利用し、オンラインでの研修や会議を開催しています。今後は、対面のみでの会議を開催せず、場所を選ばず参加が可能であるハイブリット（対面・オンライン）開催の頻度を増やします。その他研修動画をアーカイブ化によるオンデマンド視聴を可能とするなど、研修や会議のオンライン化により働き方改革を推進します。

なお、研修資料や研修アンケートについても、汎用クラウドサービス等を利用し、印刷コストが抑えられるとともに印刷・配布・回収・集計にかかる時間が省かれ、教職員の負担が軽減することに加え、リアルタイム集計や他者参照により、作業の効率化及び研修効果向上に繋がります。

（２）押印・FAXの見直し

現在、学校で取り扱う書類で、教育委員会規則等で押印を求めている書類が存在していますが、常総市教育委員会規則で定める申請書等の押印の特例を定める規則に基づく押印の省略によって、印刷コストが抑えられるとともに校務の効率化に繋がります。

また、FAXによる配布や提出についても、電子メールやチャットツール等デジタルツールを活用するよう変更します。

（３）電子決裁システムの導入

現在、グループウェアを利用し、学校内のみならず学校間のコミュニケーションを図れる環境を整備しています。今後はその他内部事務として、電子決裁システムを導入し、印刷コスト及び保管・管理に係るコストの削減並びにテレワークの定着にも寄与します。

3 情報セキュリティの確保

（１）常総市学校情報セキュリティポリシー（以下「ポリシー」という。）の定期的な見直し

令和6年1月に文部科学省が示した「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」や、現在及び今後想定される学校ICT環境に合致したポリシーに改定し、クラウド活用を前提としたGIGAスクール構想に相応しいセキュリティレベルを確保し、情報資産の適正管理を図るとともに、データ活用や個別最適な学び等、新たな時代に相応しい教育DX基盤の構築をします。

なお、時代に取り残されないよう定期的なポリシーの見直しを実施します。

（２）情報セキュリティの教育

ゼロトラスト化によるハードウェア及びソフトウェアの整備及びポリシー更新に伴う教育を教職員に定期的実施することで、児童・生徒の情報モラル育成に繋がります。

なお、併せて内部監査も実施することで、課題を抽出・解消し、より適切な環境を構築します。

4 その他

（１）AIドリル教材の活用

令和4年1月から1人1台端末によるAIドリル教材の利用を開始し、個別最適化された学習及び主体的な学びの促進を行ってきました。今後はより活用するとともに、他のクラウドサービスと連携することで、1人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実します。

(2) 授業支援ツールの活用

令和5年1月から、授業支援ツールの試行導入を行いGIGAスクール構想における1人1台端末を効果的に活用し、双方向授業及び協働学習や個別最適学習を行うと共に、ICTを授業の中で効果的に活用することで、教員の業務負担の軽減を図ってきました。

年々利用率が向上しており、業務の負担の軽減並びに学校現場から本格導入を求められていることから、本格導入を行います。

(3) AI教材の活用

学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。その中でも生成AIが、どのような仕組みで動いているかという理解や、どのように学びに活かしていくかという視点、近い将来使いこなすための力を意識的に育てていく姿勢は重要であるとされています。

「生成AI入門」、「AIを知る」・「AI体験」・「AI活用企画の作成」を取り入れることで、AI活用人材の育成の契機とし、以後授業を拡大することで、AI活用人材育成を積極的に実施します。

なお、授業については、教職員が実施するものであり、教職員のAIに関する能力向上も目的に実施します。

(4) デジタル採点システムの活用

テストの採点や成績管理については、正確な処理が求められることから、一度採点した結果を見直すなど、多くの処理時間が割かれています。さらには定期テスト実施後1～2週間程度で採点結果を生徒へ返却する必要があり、採点から観点別集計、その結果の入力・集計が各教員の長時間労働の要因となっています。そういった長時間労働の要因となっている採点から集計作業を自動化することで教員の事務処理時間を削減し、長時間労働の一部解消による働き方改革と生徒指導の質向上を目的にデジタル採点システムを導入します。